

10 技術・家庭（家庭分野）

(1) これまでの課題

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 食生活、住生活に関する学習内容が実生活に結び付きにくかった。
- ・ 2 学年 実習道具の安全な使い方の徹底が図れないこともあり、作品の未 completion があった。
- ・ 3 学年 隔週の授業で継続性をもたせるのが難しく、作品の未 completion があった。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 包丁の使い方に慣れていない生徒が多く、家庭での練習の下、包丁テストを行ったが、技能の向上・定着が図れなかった。
- ・ 2 学年 作業中の私語が多く、進度に遅れが出た。作品の未 completion が若干あった。
- ・ 3 学年 隔週の授業で継続性をもたせるのが難しかった。

(2) 指導目標

ア 平成 22 年度

- ・ 1 学年 ①食生活に関する興味・関心を高め、実生活に結び付くようにし、調理実習を通して、基礎技能の習得と安全作業の徹底に努めさせる。
②住生活に関する興味・関心を高めさせる。
- ・ 2 学年 ①衣生活について理解させ、被服製作を通して基礎技能の習得と安全な道具の使い方を徹底させる。
②消費者としての自覚をもたせ、消費者問題や環境について考えさせる。
③食生活に関する問題点を考え自らの食生活を見直すことができるようにさせる。また、日常食の調理実習を通して、基礎技能を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 ①自分の成長と家族や家庭生活、地域とのかかわりについて考えさせる。
②幼児期の発達や環境について、興味・関心を高め、幼児のおもちゃ製作やおやつ作り等の実習を通して、技能を身に付けさせる。
- ・ 全学年共通 作品未 completion がなく、補習授業を適宜実施する。

イ 平成 23 年度

- ・ 1 学年 ①食生活に関する興味・関心を高め、実生活に結び付くようにし、調理実習を通して、基礎技能の習得と安全作業の徹底に努めさせる。
②技能の定着を図るため、包丁の使い方・切り方のテストを行う。
③住生活に関する興味・関心を高めさせる。
- ・ 2 学年 ①衣生活について理解させ、製作を通して基礎技能の習得と安全な道具の使い方を徹底させる。
②消費者としての自覚をもたせ、消費者問題や環境について考えさせる。
③食生活に関する問題点を考え、自らの食生活を見直させる。
④日常食の調理実習を通して、基礎技能を身に付けさせる。
- ・ 3 学年 ①自分の成長と家族や家庭生活、地域とのかかわりについて考えさせる。
②幼児期の発達や環境について、興味・関心を高め、幼児のおもちゃ製作やおやつ作り等の実習を通して、技能を身に付けさせる。
- ・ 全学年共通 作品未 completion がなく、補習授業を適宜実施する。

(3) 指導の重点

ア 平成 22 年度

- ・生活につながる題材を取りあげ、実生活に活かすことができる学習活動を計画する。
- ・作品製作や調理実習や作業を効果的に組み入れた授業内容を工夫する。
- ・小学校家庭科および、中学校 3 年間を見通した指導計画の作成に努める。

イ 平成 23 年度

- ・1 学年 技能定着を図るため、包丁の使い方・切り方テストを実施する。
- ・2 学年 実習では、安全指導の徹底を図り、授業規律を確立する。
- ・3 学年 授業の継続性をもたせるために、毎時間前時の復習をしながら授業を行う。
- ・全学年共通 ①生活につながる題材を取りあげ、実生活に活かすことができる学習活動を計画する。
②作品製作や調理実習や作業を効果的に組み入れた授業内容を工夫する。
③小学校家庭科および、中学校 3 年間を見通した指導計画の作成に努める。

(4) 授業改善に向けての具体的な取り組み

ア 平成 22 年度

- ・1 学年 ①反復学習や実技テストにより学習内容や技能の定着を図る。
②住生活を身近なものと捉えるよう、具体例を多く授業の中で取り上げていく。
- ・2 学年 ①衣服製作を通して、学習内容に興味関心をもたせる。
②生活で活用できる日常着の手入れと補修や調理技能を身に付けさせる。
③発表や発言を通して、生徒同士の学び合いができる授業を展開する。
- ・3 学年 ①実習時間の確保に努めるために、学習プリントの内容を精選する。
②お互いの作品を鑑賞し、創意・工夫する力を高める。
③実習を通して、基礎的な技能の定着に努めさせる。
- ・全学年共通 ①授業開始時に課題を提示し、課題意識をもたせ、課題解決に向けた主体的な学習活動となるように授業を進めていく。また授業ごとに自己評価を行い、振り返りをさせる。
②学習プリントや学習ノートを使ったり、小テストを行ったりして学習内容の定着を図る。
③製作時間の確保に努め、適宜遅れている生徒への個別指導を行う。
④授業の中で、生徒同士が教え合いや学び合いができる雰囲気を作っていく。

イ 平成 23 年度

- ・1 学年 ①反復学習や実技テストにより学習内容や技能の定着を図る。
②住生活を身近なものと捉えるよう、具体例を多く授業の中で取り上げていく。
- ・2 学年 ①製作を通して、学習内容に興味関心をもたせる。
②生活で活用できる日常着の手入れと補修や調理技能を身に付けさせる。
③発表や発言を通して、生徒同士が学び合いができる授業を展開する。
- ・3 学年 ①実習時間の確保に努めるために、学習プリントの内容を精選する。
②お互いの作品を鑑賞し、創意・工夫する力を高める。
③実習を通して、基礎的な技能の定着に努めさせる。
- ・全学年共通 ①授業開始時に課題を提示し、課題意識をもたせ、課題解決に向けた主体的な学習活動となるように授業を進めていく。また授業ごとに自己評価を行い、振り返りをさせる。

- ②学習プリントや学習ノートを使ったり、小テストを行ったりして学習内容の定着を図る。
- ③製作時間の確保に努め、適宜遅れている生徒への個別指導を行う。

(5) 平成 22 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

毎時間の授業では、授業目標の明確化を行うことによって、自主的な学習活動に結び付くものとなった。しかし、一部の生徒に進んで発言したり、質問したりすることに関して消極的な面が見られた。

また、実習に関して教師に頼りがちになり、一斉指導の時点で理解せずに後で教師に聞く生徒が多く見られ、本当に個別指導が必要な生徒に指導が行き届かない状況があった。一斉指導の時点で、説明を聞き内容を理解して、自分で考え自主的に製作に取り組む態度を育て、また実習内容を工夫して分かりやすく説明する必要がある。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

授業内容の理解度や進度、板書やワークシートなどの項目では、9割近くの生徒が「①あてはまる」、「②ややあてはまる」と回答したが、発表や質問に関する項目では、2割の生徒が「③あまりあてはまらない」、「④あてはまらない」と回答した。

一斉指導の時点で理解が十分でなかったために、後で同じことを質問する生徒がいる。授業方法や説明の仕方、教材の工夫、生徒の聞く態度などを課題として取り組む必要がある。また、授業内容を理解していても、分からないことや自分の考えを発言したり質問したりできる機会がなかったので、授業に、自分の意見や考えを発言できる機会を設ける必要がある。

ウ 授業改善の手だて

ワークシートをさらに改善し、自分の考えを記入できる項目を増やす。また、授業の中で、自分の考えや疑問に思ったことなど発表できる機会を設ける。また、板書や発問の仕方を工夫する。

生徒同士の教え合い、学び合いの機会を大切にし、グループごとに自分の考えをまとめ、意見を発表する機会を設ける。

実習ではサブティーチャーを育成し、生徒が教え合い、学び合う機会を作る。理解が不十分な生徒に関しては、特に個別指導や補充授業を設ける。

道具や器具の取扱いに留意し、実習を安全に行うために、環境を整え、安全指導の徹底を図る。

(6) 平成 23 年度 授業評価から授業改善へ

ア 前年度の授業評価の結果からの課題

授業内容は板書やワークシートを工夫することによって、9割近くの生徒が「理解している」という結果になった。しかし、2割の生徒が「発言や質問ができない」という結果もあった。質問の時間を設けることや板書や発問を工夫することによって発言も多くなったが、決まった生徒に発言が集中することもあった。

また、実習では、一斉指導で十分理解できなかったために、個々に質問する生徒が多くなるという傾向が見られた。

イ 今年度の授業評価の結果分析と課題

「授業の受け方」では、生徒が「授業内容を理解した」や「チャイム着席ができた」、「友達や先生の話聞くことができた」ことについて9割の生徒が肯定的な回答をしている。

反面、「発言や質問」に関しては4割の生徒ができないと回答している。授業の中で、決して発言がない

というわけではなく、決まった生徒に発言が集中している場合が多い。質問や発言ができる授業の雰囲気作りや意図的に発言や質問を聞く時間を作るなど授業方法の改善が必要である。

「授業の仕方」では、説明の仕方・進度・板書・ワークシート・授業の到達目標の明確化などで9割の生徒が充実していると回答している。しかし、グループで意見をまとめることができないと回答した生徒が1割、自分の考えを発表できなかったという生徒が3割という回答になった。

また、資料や教材の効果的な使用に関しては、前年度より「①あてはまる」が1割低くなるという結果になった。授業の中で、「考える」→「ワークシートにまとめる」→「発表する」という流れができるようにワークシートの改善や板書の工夫、発問などを吟味する必要がある。さらに、視聴覚教材を有効に活用することによって、技能の定着を図る。

ウ 授業改善の手だて

- ・プロジェクターやビデオを使い、実際に目で見て確認できるように、視聴覚教材を有効に活用する。
- ・生徒同士の学び合い、教え合いの機会を作り、実習ではサブティーチャーの育成を図る。そのために、机間指導をし、生徒のよくできている所を見逃さないようにする。
- ・一斉指導の後、質問の時間を作る。また、誰もが質問しやすい雰囲気を作る。
- ・グループで話し合う機会を作る。はじめに自分の考えをまとめる時間を作り、その後にグループで話し合う時間を設ける。また、実習ではグループ内で友達の商品を見たり、分からないところを質問したりする時間を作る。
- ・ワークシートや板書計画の改善を図る。生徒の予想される答えを考えながら、ワークシートを作成し、板書とワークシートがリンクした授業の展開を図る。
- ・生徒が安心して授業や実習に取り組むことができるように、道具や器具の取扱いの説明を行い、環境を整え、安全指導の徹底を図る。
- ・小学校の学習内容を振り返りながら、基礎・基本の定着を図る商品の製作を行う。また、興味・関心をもって取り組むことができる商品の選択をする。

(7) 平成 22 年度 研究の成果と課題

ア 「授業評価」について

- ・1 学年 ①道具や調理器具の取扱いに留意し、安全指導を徹底することで、調理実習を大きな怪我や事故がなく調理実習を行うことができた。
②授業では、忘れ物も少なく授業に積極的に参加する生徒が多かった。
- ・2 学年 ①サブティーチャーを育てることで、生徒同士の教え合い、学び合いの機会が多くなり、ほとんどの生徒が商品を提出することができた。
②授業の理解度や進度、板書やワークシートの項目では、9割近くの生徒が、「あてはまる」「ややあてはまる」の評価であったので、引き続き取り組んだ。
③発表や質問に関する評価では、2割の生徒が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の評価だったため、授業の中で発表する時間や質問する時間を意図的に設けることができた。
- ・3 学年 ①被服実習では、作業に集中し自主的に自分の課題で取り組むことができた。
②作品や提出物に関して、ほとんどの生徒が提出し、未提出者が少なかった。
③忘れ物に関して、教科書を忘れる生徒が1クラス必ず2～3人いたが、授業時数が2週間に1時間、行事等での授業カットの場合は1ヶ月に1時間の授業になる場合があり、継続的な指導が難しかった。

イ 今後の課題

- ・ 1 学年 ①引き続き、安全指導を徹底し、実習に取り組んでいく。特に、リンゴの皮むきやキュウリの薄切りテストでは、不器用な生徒も多かったので、包丁などの基本的な調理器具の使い方の指導を継続的に行っていく。
- ②被服実習が中心になるので、基本的な針の使い方やハサミの使い方などを授業の中で取り上げ、安全に作業できるように指導を徹底する。
- ③決まった生徒だけではなく、すべての生徒が発表や質問できるように、発問などを工夫して授業展開する。
- ・ 2 学年 ①週 1 時間の授業から 2 週間に 1 時間の授業になるので、忘れ物の指導や授業内容の継続性が難しくなることが予想される。教科係や学級担任と連携し、忘れ物がなく授業が円滑に行えるようにしていく。
- ②被服実習では、一斉指導の時点で理解が不十分のため、個別の質問が多く、本当に援助が必要な生徒に指導できない場面があった。授業規律を確立し、発表する時間、話し合いをする時間、考える時間などメリハリをつけた授業を展開する。